



死にゆく人のケアやグリーフケアはコミュニティの事柄であり、社会のあり方の問題だ。死生学的なケアは新たな社会構想にもつながるという視野の革新。死に向き合うことが、新たなケアの文化を構築していくことにもなる。健康都市を超えて死に関わるケアにも取り組んでいく

老、病、死、喪失を受けとめ、支え合うコミュニティをつくる

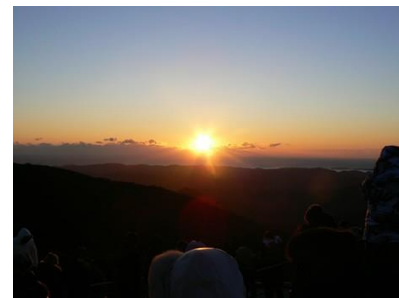
慶應義塾大学出版会 定価(本体4,200円+税)

島蘭進 東京大学名誉教授 上智大学グローバルケア研究センター長

「家がいいね」第235号

いせ在宅医療クリニック 広報月刊紙

2023.12.2



暗い時間の呼び出しでも、思わぬ贈り物があります。空の薄明が始まり、周囲の輪郭が明らかになり、山の端が下から輝き、日の出に続きます。太陽が頭を出し1分でもう眩しく、自分も周りも照らされていると感じます。温められ私も生きています。太陽の直径は視角0.5度で、2分で浮かび上がってくるそうです。それは自分の足の地球の自転速度なのだ、と思い返します。

健康寿命の延伸だけでイイのだろうか？

2006年7月11日に、伊勢市は「健康文化都市宣言」をして、健康を町づくりの基本として以降も基本計画を続けています。

「生涯を健康で暮らせる健康文化都市をめざして」が標語ですが「めざして」がいつの間にか取り払われ、幻想化都市です。伊勢の医療介護は、**健康寿命の延伸**が守備範囲のままです。

「いつまでもお元気で」と言われ、**最期まで地元で生きていく希望**には策が及びません。世界では**健康都市を超えて**、左記のごとく皆が繋がりにあう**新しい考えが進みます。支え合う都市へ頭を変えましょう。**



過去の光に照らされて星も綺麗な夜が来ました。今の私にささやかかける光は、私の誕生の前に宇宙を発して届いたものなのです。今と思った月の輝きでさえ1秒以上前、それを照らす太陽から8分の旅の後です。私たちの考えも、所詮は後追いの多いものなのです。焦らず、年の瀬をじっくりと、生きてゆきましょう。

未来が開かれたものになるためには

月の名所は高知の桂浜。坂本龍馬の銅像が、月と海を前にして夕暮れていました。前方へ回ると**アレツ!**2歳の子がポーズをキメていました。



日本を大洗濯するためには、**君たち大人が、ずっと遠くまで見る目を持たんとイカンぜよ!**後ろからの声が聞こえました。



年末年始の休診のお知らせ

正月期間の休みは、**12月28日から1月4日**です。
在宅の患者さんにはこの間も対応します。



自宅での人生を
最期まで支援します

〒516-0805
三重県伊勢市御園町高向 927
電話 0596-20-8104
ファクス 0596-20-8105
メール homecare@kr.tcp-ip.or.jp
<https://isezaitaku.com>



→バックナンバー閲覧可